

1. レポート回数: 第2回(4月27日)レポート
2. 課題名: サーチエンジンの使い方1 サーチエンジンの使い方と検索語の選択
3. 内容

【設問1】

- 1 職人技能の継承がさまざまな分野で課題になっている。伝統的な木造建築を造る「大工技能」もその一つである。このような事態に対し、平成15年度(2003年度)にどのような方策が国でとられているか知りたい。

サーチエンジンの種類と選択理由

サーチエンジン: Yahoo Japan (<http://www.yahoo.co.jp/>)

理由: 日本で最も有名なサーチエンジンであると思われるから。

検索語間の関係

検索語: 大工技能 平成15年度 国

この設問のキーワードとなる「大工技能」を検索語に入れるのは当然だが、「平成15年度」「国」という、いつ、どこがやったかも検索語入れることで、検索精度を上げた。

「方策」という語も検索語に入れようと考えたが、これを入れると絞られすぎていい検索結果が出なかったのでやめることにした。

検索結果(件数)

件数: 37件

検索結果の内容の検討

検索件数37件の内、設問に関するものは8、それ以外のものでは「大工技能」という言葉が含まれているものと「平成15年度」という言葉の平成と年度という言葉が含まれているものが検索結果として出てきた。

検索結果の評価(「webの評価」、「リンク数の検索での評価」)

設問に関するものの内、国(国土交通省)から出ているものとそれをそのまま伝えているものがほとんどなので、「webの評価」はほぼ満点に近い。「リンク数の検索での評価」でも満点に近い。

問題に対する回答

回答: 伝統構法を活かした木造住宅づくりを担う大工技能者の育成事業について

～大工育成塾 塾生募集～

国土交通省では、平成15年度より、(財)住宅産業研修財団(<http://www.hic.or.jp/daiku/>)を事業主体として、講義と実習からなる研修により大工技能者の育成を重点的に推進している。

【設問2】

- 8 1975年12月中国で秦代竹簡が大量に発見された。これは初めて発見された秦代の竹簡であり、どこで発見されたのか知りたい。

サーチエンジンの種類と選択理由

サーチエンジン：Google (<http://www.google.com/intl/ja/>)

理由：何かを検索する時、最も使われていると思われるから。

検索語間の関係

検索語：1975年 12月 秦 竹簡

上の四つは必要最小限の検索語であり、これに「中国」を足したり、「12月」をはずしたりすると検索結果が少なすぎたり多すぎたりして不適當であった為に、検索語を「1975年」「12月」「秦」「竹簡」という四つにした。

検索結果（件数）

件数：51件

検索結果の内容の検討

検索件数 51 件の内、設問に関するものは 13、それ以外のものは「1975年」と「竹簡」という語が含まれているものや、「12月」の 12 や「秦」という語が含まれているものが検索結果として出てきた。しかも日本語のページよりも中国語のページの方が多かった事は、設問が中国の内容を問うているので当然のことであろう。

検索結果の評価（「web の評価」、「リンク数の検索での評価」）

「web の評価」は、日本語のページで評価が高いと思われるものは國學院大學のオープンカレッジの授業説明のページ (http://www.kokugakuin.ac.jp/geb/public/open15_schedule15-17.html) で作成者や機関が明確に示されていて、信頼できる機関が作成している。中国語のページでは、秦皇帝兵馬俑博物館ホームページ内の記載 (<http://fjt.infoscape.com.cn/gate/big5/www.bmy.com.cn/viewpaper.asp?ID=268>) が最も見やすく、評価も高いと思われる。なお中国語の翻訳は、infoseek マルチ翻訳 (http://www.infoseek.co.jp/Honyaku?pg=honyaku_top.html&svx=100302&svp=SEEK) を使用した。

問題に対する回答

回答：中国湖北省雲夢（うんぼう）県睡虎地の十一号墓から、1975年12月に1200本近い秦の竹簡が出土した。竹簡の記載により、この墓の主は、「喜」といい、秦の始皇帝の時の獄吏で、始皇帝の30年（B.C.217年）に亡くなったということが判明している。

4. 感想

今回の課題から、いかに検索語を設定するかの難しさを学んだ。今までにも検索していて、欲しい回答を得る為に検索語を決定するのに四苦八苦してきたが、今回は、「検索語の選択」ということが課題であった為に、より一層「検索語の選択」の難しさが鮮明になっていたように思う。「検索語の選択」においては、自分が欲しい回答を得る為にはあえて検索語を簡素化したり、減らしたりすることも必要であるだろう事を今回のレポート作成から得られた。